

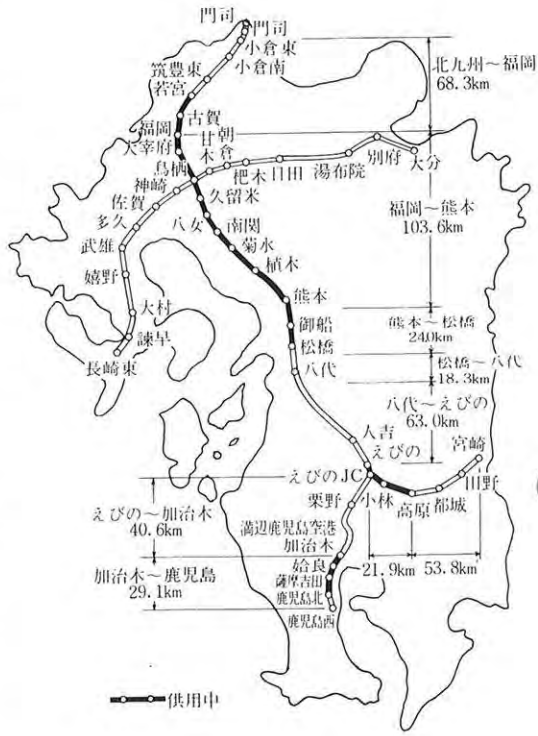
道路の整備状況 昭52.4.1現在

区分	年度	改良率(%)				舗装率(%)			
		国道	主要地方道	一般県道	市町村道	国道	主要地方道	一般県道	市町村道
熊本県	昭40	48.2	41.3	16.3	11.5	45.1	22.4	5.5	2.0
	45	67.2	50.7	21.6	16.0	81.9	54.9	34.6	10.4
	50(初)	72.1	56.7	31.6	21.0	97.3	88.7	82.1	30.9
	51(〃)	74.1	54.2	31.3	22.6	97.7	91.7	84.1	35.1
	52(〃)	75.4	55.1	32.3	23.7	99.7	95.0	89.0	40.6
全国	昭40	66.5	50.5	25.8	12.0	59.0	28.2	12.4	4.4
	45	80.6	68.7	38.5	15.5	83.6	64.5	39.2	12.0
	50(初)	84.9	72.0	47.0	21.0	91.2	80.9	60.9	24.2
	51(〃)	85.2	69.0	47.6	22.0	92.4	79.7	64.0	27.0
	52(〃)	85.7	55.9	23.2	93.2	71.9	29.8		

注) 50年度(初)～52年度(初)はそれぞれ4月1日現在、
 その他は年度末現在。

八年十二月に工事に着手しており、早期完成が望まれています。
 水資源等の総合的開発は、調和ある地域開発を進めていくうえで不可欠の問題であることから、それぞれの地域に賦存する資源の開発とその効率的な使用

九州高速自動車道路線図



して送ることのできるものでなくてはなりません。また同時に、一人ひとりが伝統と文化を愛し、それぞれの個性と豊かな創造力を、存分に発揮できる活力に満ちた郷土でなくてはなりません。
 このような地域社会を「新しいふるさと」として捉え、これを県政推進の根底におき、人間尊重・生活優先の県政の理念の実現を目指して各種施策の積極的な推進に取り組んできました。
 以下これら施策の成果について、基本構想に掲げている県政の基本方向に沿って、その課題と達成状況を概括的に述べることとします。
一 豊かな社会への基盤づくり
 戦後の荒廃の時期と比べると、生活水準は大幅に向上したとはいえ、所得水準をはじめとして、総体的に全国水準より遅れた面をもつ本県では、長期的な視点に立って、交通通信施設の整備や水資源の開発など、産業と生活のための基盤整備を進めることが、重要な課題でした。
 また、それと並んで、住民の生活圏域の広域化に対応した広域行政の推進が不可欠の要素となってきました。特に、人口流出の激しい農山漁村においては、過疎化の問題が深刻となり、その解決のためには、それぞれの地域の特性に応じた

産業の振興と生活環境の整備を図ることが重要な課題でした。
 まず、幹線交通網の整備に関しては、九州縦貫自動車道が昭和五十一年十一月熊本インターからさらに南に延びて御船町までが供用となり熊本～福岡の時間距離が大幅に短縮されました。今後、八代さらには人吉までの開通により、県内の開発可能性の飛躍的拡大が期待されます。
 また、道路網の整備についても、域内交通の円滑化と地域開発を進めるため、その機能の拡充に努め積極的な投資を行ってきました。その結果、国・県道、市町村道の改良率、舗装率は大幅に向上しました。舗装率については、国・県・市町村道とも全国平均を上回る水準に達しています。
 熊本空港は、昭和四十六年の新空港開設以降、計器着陸装置の設置、大型機離着陸の安全のための滑走路のかさ上げ工事などが行われ、現在は、大型機が就航して乗降客数も年々増加し、五十二年には延百二十四万人となりました。また、五十五年完了を目標として、滑走路の三千mへの延長工事に着手し、空港の国際化の実現にも努めています。また、熊本都市圏の物流の拠点となる熊本港の建設については、四十八年に港湾計画が運

を図ることとして、事業を実施してきました。
 まず、水資源の開発では、治水、かんがい等の多目的ダムとして、昭和四十六年に緑川ダム(建設省直轄、総事業費九十九・五億円)、四十八年には氷川ダム(県事業、二十七億円)がそれぞれ完成しました。このほか、現在建設計画を進めている多目的ダムとしては、四十一年に建設計画を発表した川辺川ダム(建設省)、四十三年から諸調査を始め国道付替工事に着手している亀川ダム(県)、

四十五年から実施計画調査を始めている竜門ダム(建設省)があります。このほか、水資源の開発調査も長期的な観点に立って続けています。
 工業用水については、不知火、有明、大牟田地区新産都市の拠点である有明臨海工業地域及び八代臨海工業地域に立地する企業への給水を図ることとして建設を進めてきました。有明工業用水道が、総事業費三十三億円をかけて昭和五十年六月に、八代臨海工業用水道が、総事業費三十七億円をかけて五十二年四月に完成



九州縦貫自動車道(熊本I.C.)

輸大臣から承認され、五十一年には、第五次港湾整備五カ年計画に組み込まれ、現在、工事着手のため関係漁民の方々の調整等に努めているところでです。
 九州新幹線鉄道の建設は昭和四十八年十一月に運輸大臣が整備計画を決定し、

五十二年には国鉄の委託を受けて環境実態調査を実施し、今後、沿線に及ぼす各種の影響等について検討が進められようとしています。早期着工について関係機関に強く要望を続けています。また、高森と高千穂を結ぶ高千穂線は四十



熊本空港